

授業参観は大嫌いでした。保護者名簿の母の名前の部分にぽっかりと穴があいているのです。そのことは、私の心を強くしめつけました。（私にはお母さんがいないんだな。）改めてそう思わされました。そんなとき私は、どうすれば母が帰ってくるだろうかということで頭がいっぱいになりました。「もっと家のお手伝いをすれば？もっとお姉ちゃんと仲良くすれば？もっと良い子にしていれば？」でも、分かっています。どんなにがんばっても母が帰ってくることは決してないことを。

お母さん、もしお母さんがここにいたら私は伝えたいです。

「お父さんは、お母さんが亡くなってからずっと、お弁当が必要な日にはこの家にも負けないくらいかわいくておいしいお弁当を作ってくれたんだよ。おばあちゃんとおじいちゃん、私が風邪を引いたときは2人で看病してくれて、とてもうれしかったよ。お姉ちゃん達とはずっとけんかばかりだったけど、大学生になった今では、どんな相談にものってくれるんだよ。今、私は御飯を毎晩作ってるよ。御飯作りって大変だよ。でも、みんなが『おいしい』って食べてくれるからすごくうれしい。今は、お姉ちゃん達に負けないくらいに御飯が作れるように頑張ってるよ。ほんとはね、お姉ちゃん達にもっと帰って来てほしい。でも2人とも遠くで頑張ってるから応援してる。私はみんなに優しくしてもらってるから、少しは我慢も必要だし。今は私も、寂しくてもがんばるね。」

最近テレビを見てみると、成績が落ちて、しかられるのが嫌でとか、むしゃくしゃしてなどの理由で、子

中学3年生の応募が多い中、今回知事賞を受賞した大野さんは、募集のポスターを見て自分から「伝えたいことがある」と応募。かけがえのない家族への思い、気付いてほしいメッセージ。思いを言葉で伝えるのは、簡単そうで難しいことです。

彼女たち中学生のひと言ひと言に耳を傾けるきっかけとなった「少年の主張」。子どもたちの心の声を聞き逃さないでください。

入賞者(南丹市内)

■京都府教育委員会教育長賞

「私の夢」

園部中学校3年 西田 早織さん

■京都府PTA協議会会長賞

「美山で咲かす大輪の花」

美山中学校3年 大上 宗人さん

■KBS京都賞

「友達になれるまでの時間」

園部中学校3年 今西 美佳代さん

どもが自分の親を殺すなどという事件が報道されています。私の周りの友達にも、親とけんかをして「親、うざいし」とか「親なんていないほうがいいやん」などと言っている人がいます。確かに家族って、いつも一緒にいると、そっとしておいてほしいことに口を出してきたり、やりたいことをしているときに何かを言ってきたりして、嫌になることもあると思います。でもそれは、「家族は、いて当たり前」・・・そんな考えが前提にあるからではないでしょうか。私は、母を失った経験から、家族とられる一日一日は世界一大きな幸せだと思います。

私には夢があります。それは、将来自分が家庭を持つたとき、家に帰ってきた家族に「おかえり。」

と言ってあげることです。たった一秒のこの言葉の中に、かけがえのない幸せがあることを思いながら。